



社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第244号

平成20年(2008年)5月刊

1. 石綿による疾病に係る労災補償制度等の周知について

標記のことにつき、厚生労働省労働基準局労災補償部長より「石綿ばく露等チェック表」のリーフレットの配布依頼がありました。内容につきましては厚生労働省の下記ホームページを参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/sekimen/pamph/051004-1.html>

2. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

竹内 純 名誉会員 (平成20年3月9日ご逝去)

お知らせ

1. 平成20年度「日本医師会医学賞」ならびに「日本医師会医学研究助成費」候補の推薦について

申込み締切り：平成20年7月3日

連絡先：日本医師会生涯教育課

〒113-8621 文京区本駒込2-28-16

TEL: 03-3946-2121

2. 第3回 横浜乳腺病理診断研究会について

日時：平成20年7月5日(土)

(要事前申し込み 70名まで)

会場：横浜市立大学附属市民総合医療センター

講演・診断講習：伊藤 仁先生(乳腺細胞診)，
坂元 吾偉先生

連絡先：横浜市立大学市民総合医療センター 病理部
担当 佐々木 毅

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57

TEL: 045-253-5323 FAX: 045-253-5383

E-mail: takesasa@yokohama-cu.ac.jp

3. 第28回日本小児病理研究会ならびに第5回小児病理セミナーについて

会期：平成20年9月6日

会場：信州大学松本キャンパス 旭会館3階

連絡先：1) 研究会

長野県立こども病院臨床検査科

小木曾嘉文

TEL: 0263-73-6700

(内線 1407/院内 PHS 8076)

FAX: 0263-73-6710

E-mail: ogiso@naganoch.gr.jp

2) セミナー

国立成育医療センター臨床検査部病理診断科

松岡健太郎

TEL: 03-3416-0181

FAX: 03-5494-7136

E-mail: matsuoaka-k@ncchd.go.jp

日本医学会だより

JAMS News

2008年5月 No. 39
日本医学会

◆第75回日本医学会定例評議員会

高久会長から「日本医学会は平成19年度に部会の編成があり、臨床部会、基礎部会、社会部会の3つに分かれた。特に臨床部会は種々の問題があり、臨床部会のなかに運営委員会を設置し、そのなかでまた作業部会を設けて緊急の問題を検討している。今後とも社会性の高い問題の活動を続ける必要があると考えている」と挨拶があった。

同日に次期役員の変更があり、会長に高久史磨、副会長に岸本忠三、久道 茂、矢崎義雄の各氏が選出された。任期は平成20年4月1日から2年間。

また、日本肥満学会、日本血栓止血学会、日本血管外科学会の3学会が加盟承認された。

◆第28回日本医学会総会

第28回日本医学会総会は、会頭に矢崎義雄国立病院機構理事長、副会頭に小川秀興順天堂大学理事長、開原成允国際医療福祉大学大学院院長、鈴木聰男東京都医師会会長、準備委員長に永井良三東京大学大学院医学研究科教授が決定した。

学術講演は2011年4月8日～10日に東京国際フォーラムで、展示は4月2日～10日に東京ビッグサイトで開催を予定している。

テーマは、「開かれた医学・医療」(案)を掲げたが、転換期を迎えた医療を考慮のうえ、慎重に検討したい。また総会を医学・医療の最新情報の発信の場とするとともに、著しく進歩した医学を臨床にいかに導入し、医療としてどのよ

うに社会に展開していくかを目標として、これからの医学・医療を展開したい。

◆日本医学雑誌編集者会議

今年度の新規事業として、日本医学雑誌編集者会議を夏頃に開催する予定。これは日本医学会分科会が発行している雑誌の編集長の集会で、WHO 西太平洋地域事務所ならびに医学雑誌編集者国際委員会との関連を深めるという活動を具体的に進めていく方針である。

◆日本医学会臨床部会運営委員会

昨年、臨床系分科会の70学会による第1回日本臨床部会会議を開催し、社会性の高い事柄を日本医学会で検討して、社会に発信することが重要だという議論があった。そこで日本医学会臨床部会は効率的に運用するために、日本医学会臨床部会運営委員会を設置した。基本領域の10学会と、Subspecialtyの2学会で運営する。運営委員長には門田守人日本外科学会監事に、副委員長には池田康夫日本内科学会監事が就任した。また日本医学会臨床部会運営委員会では、さらに作業部会をつくり、診療関連死の問題、公益法人に関する問題、専門医制に関する問題、一部将来的には利益相反の問題なども検討する必要があるとのことで議論を進めている。

◆診療関連死に関する作業部会

作業部会は山口 徹運営委員会委員が部長を務める。現在、厚生労働省で検討されている

診療行為に関わる死因究明制度の方向性については、日本医学会加盟の19学会からの共同声明で示された届出制度、中立的第三者機関の創設の方向性と一致するものであり、方向性そのものは日本医学会でも賛成であると作業部会で議論された。ただ、2008年10月に出された第二次試案の内容については、種々の意見があり、いくつかの疑問点が指摘された。今後、継続して検討される。

◆日本医学会医学用語辞典英和 第3版

日本医学会医学用語管理委員会は開原成允委員長の下、『日本医学会医学用語辞典（英和）』第3版改訂（付CD-ROM）を行った。改訂には、日本医学会分科会用語委員の協力を得た。第3版は、辞書の用語見出しを世界的な水準に照らし合わせ Unified Medical Language System と MeSH という英語圏の基準を取り入れた。また各学会の訳の相違をなるべく少なくし、用語の統一を図ったことは、今回の改訂の重要なポイントである。また医学用語は常に変更する必要があるため、各学会からの要望・訂正をすみやかに Web に反映している。

◆第6回日本医学会公開フォーラム

「医学・医療の今—がんに挑む—胃がん」をテーマに、2008年6月7日（土 13:00~16:00）、日本医師会館大講堂において開催（組織委員長：垣添忠生国立がんセンター名誉総長）。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 胃がんのリスクファクター/津金昌一郎（国立がんセンター）、2. ピロリ菌と胃がん：胃がんの早期診断と予防について/上村直実（国立国際医療センター）、3. 胃がんの手術治療/佐野武（国立がんセンター中央病院）、4. 胃がんの

抗がん剤治療/兵頭一之介（筑波大学大学院臨床医学系消化器内科）、5. 胃の全摘出を受けた患者の立場から/杉村 隆（国立がんセンター名誉総長）。

◆第134回日本医学会シンポジウム

「感染症をめぐる最近の話題」をテーマに、2008年7月17日（木 13:00~17:00）に、日本医師会館大講堂において開催。組織委員は、竹田美文、鈴木 守、光山正雄、宮村達男の各氏。参加希望者は、上記フォーラムに同じ方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

序論/竹田美文（岡山大学）、1. エイズ/俣野哲朗（東京大学医科学研究所）、2. 薬剤耐性マラリアの世界的拡散に対する戦略/狩野繁之（国立国際医療センター研究所）、3. ヘリコバクター・ピロリの多様な病原性/平山壽哉（長崎大学熱帯医学研究所）、4. ヒトパピローマウイルスの生活環とワクチン戦略/神田忠仁（国立感染症研究所）、5. C型肝炎ウイルス研究の進展：ウイルス増殖からワクチン開発へ/脇田隆宇（国立感染症研究所）、6. 麻疹/柳 雄介（九州大学大学院医学研究院）、7. インフルエンザ/河岡義裕（東京大学医科学研究所）。

◆医学賞・医学研究助成費

平成20年度日本医師会医学賞・医学研究助成費の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。推薦期間は、5月15日~7月3日。申請書は、日本医師会ホームページ（<http://www.med.or.jp/>）からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成20年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示（日本医師会雑誌等）し、7月31日に締め切る。申請書は、日本医学会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）からダウンロードできる。